

(様式第10)

国際研セン発 261003d

平成26年10月

厚生労働大臣

殿

開設者名 理事長 春日 雅

独立行政法人国立国際医療研究センター病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
氏名	白潟 慎一

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

独立行政法人国立国際医療研究センター病院

3 所在の場所

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1	電話 (03) 3202-7181
-----------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等 1呼吸器内科、2循環器内科、3糖尿病内科、4消化器内科、5血液内科、6内分泌代謝内科、 7腎臓内科、8神経内科、9心療内科、10感染症内科、11新生児内科、12内視鏡内科、 13人工透析内科、14緩和ケア内科、15ペインクリニック内科、	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1外科、2呼吸器外科、3心臓血管外科、4消化器外科、5小児外科、6形成外科、7頭頸部外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	12放射線科	⑬放射線診断科	
⑭放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1アレルギー科、2リウマチ科、3リハビリテーション科、4病理診断科、

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
38床	4床	40床	床	699床	781床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	198人	267人	394.4人	看護補助者	25人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	2人	14人	13.2人	理学療法士	11人	臨床検査技師	48.4人
薬剤師	33人	4人	36.2人	作業療法士	5.8人	衛生検査技師	0人
保健師	人	人	人	視能訓練士	3.8人	その他	0人
助産師	人	人	人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	771人	18人	785.4人	臨床工学技士	9人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	1人	0人	1人	栄 養 士	0人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	1人	1人	1.8人	歯科技工士	1人	事務職員	164.4人
管理栄養士	6人	3人	8.4人	診療放射線技師	43人	その他の職員	60.4人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	27人	眼科専門医	5人
外科専門医	20人	耳鼻咽喉科専門医	4人
精神科専門医	3人	放射線科専門医	6人
小児科専門医	13人	脳神経外科専門医	5人
皮膚科専門医	1人	整形外科専門医	5人
泌尿器科専門医	5人	麻酔科専門医	4人
産婦人科専門医	8人	救急科専門医	6人
		合 計	112人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	674.6人	2.4人	677.0人
1日当たり平均外来患者数	1650.1人	79.7人	1729.8人
1日当たり平均調剤数			1352.8剤
必要医師数			166.83人
必要歯科医師数			1.3人
必要薬剤師数			22.57人
必要(准)看護師数			396.16人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
			病床数	心電計	有・無
集中治療室	206.34m ²	SRC造	病床数	10床	有・無
			人工呼吸装置	有・無	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 284.00 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	30床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 127.45m ² [共用室の場合] 共用する室名				
化学検査室	368.83m ²		生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置		
細菌検査室	131.96m ²		血液培養自動分析装置、同定薬剤感受性パネル自動測定装置		
病理検査室	250.41m ²		クリオスタット、全自動染色システム、自動封入装置		
病理解剖室	295.86m ²		感染症対策解剖台、遺体貯蔵庫、フロアスケール		
研究室	134.67m ²		(主な設備) データ解析用PC		
講義室	304.26m ²		室数	1 室	収容定員 400 人
図書室	277.06m ²		室数	2 室	蔵書数 34,616 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	89.7%	逆紹介率	61.8%
算出根拠	A: 紹介患者の数	10,368人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,991人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	8,473人	
	D: 初診の患者の数	21,010人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
実物大臓器立体モデルによる手術支援	0人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	4人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	0人
パクリタキセル腹腔内投与および静脈内投与ならびにS-1内服併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	11	・膿疱性乾癬	13
・多発性硬化症	7	・広範脊柱管狭窄症	14
・重症筋無力症	15	・原発性胆汁性肝硬変	14
・全身性エリテマトーデス	9	・重症急性膵炎	11
・スモン	19	・特発性大腿骨頭壊死症	10
・再生不良性貧血	10	・混合性結合組織病	12
・サルコイドーシス	15	・原発性免疫不全症候群	10
・筋萎縮性側索硬化症	12	・特発性間質性肺炎	13
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	12	・網膜色素変性症	15
・特発性血小板減少性紫斑病	13	・プリオン病	19
・結節性動脈周囲炎	18	・肺動脈性肺高血圧症	12
・潰瘍性大腸炎	13	・神経線維腫症	13
・大動脈炎症候群	9	・亜急性硬化性全脳炎	7
・ビュルガー病	11	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	13
・天疱瘡	14	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	17
・脊髄小脳変性症	15	・ライソゾーム病	16
・クローン病	15	・副腎白質ジストロフィー	14
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	16	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	20
・悪性関節リウマチ	10	・脊髄性筋萎縮症	12
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	16	・球脊髄性筋萎縮症	13
・アミロイドーシス	13	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	13
・後縦靭帯骨化症	18	・肥大型心筋症	11
・ハンチントン病	11	・拘束型心筋症	13
・モヤモヤ病(Willis動脈輪閉塞症)	11	・ミトコンドリア病	8
・ウェゲナー肉芽腫症	14	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	14
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	6	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	15
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びピシャイ・ドレーガー症候群)	14	・黄色靭帯骨化症	15
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	7	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	12

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料	救命救急入院料
臨床研修病院入院診療加算	特定集中治療室管理料
救急医療管理加算	ハイケアユニット入院医療管理料
超急性期脳卒中加算	新生児特定集中治療室管理料1
妊産婦緊急搬送入院加算	新生児治療回復室入院医療管理料
診療録管理体制加算	小児入院医療管理料2
医師事務作業補助体制加算	
急性期看護補助体制加算	
療養環境加算	
重症者等療養環境特別加算	
無菌治療室管理加算	
緩和ケア診療加算	
精神科身体合併症管理加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算	
感染防止対策加算	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊婦管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
退院調整加算	
新生児特定集中治療室退院調整加算	
救急搬送患者地域連携紹介加算	
救急搬送患者地域連携受入加算	
呼吸ケアチーム加算	
データ提出加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	心臓MRI撮影加算
高度難聴指導管理料	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
糖尿病合併症管理料	外来化学療法加算1
がん性疼痛緩和指導管理料	無菌製剤処理料
がん患者指導管理料	心大血管疾患リハビリテーション料(I)
外来緩和ケア管理料	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
移植後患者指導管理料	運動器リハビリテーション料(I)
糖尿病透析予防指導管理料	呼吸器リハビリテーション料(I)
地域連携小児夜間・休日診療料2	がん患者リハビリテーション料
外来リハビリテーション診療料	集団コミュニケーション療法料
外来放射線照射診療料	歯科口腔リハビリテーション料2
ニコチン依存症管理料	医療保護入院等診療料
地域連携診療計画管理料	一酸化窒素吸入療法
地域連携診療計画退院時指導料(I)	CAD/CAM冠
地域連携診療計画退院時指導料(II)	歯科技工加算
がん治療連携計画策定料	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
がん治療連携指導料	乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ
肝炎インターフェロン治療計画料	経皮的冠動脈形成術
薬剤管理指導料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
医療機器安全管理料1	経皮的冠動脈ステント留置術
医療機器安全管理料2	経皮的中隔心筋焼灼術
医療機器安全管理料(歯科)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
歯科治療総合医療管理料	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出
在宅血液透析指導管理料	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
持続血糖測定器加算	経皮的冠動脈遮断術
造血器腫瘍遺伝子検査	ダメージコントロール手術
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	腹腔鏡下肝切除術
検体検査管理加算(I)	生体部分肝移植術
検体検査管理加算(IV)	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
植込型心電図検査	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
時間内歩行試験	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
ヘッドアップティルト試験	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
人工膵臓	輸血管理料I
皮下連続式グルコース測定	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
神経学的検査	歯周組織再生誘導手術
ロービジョン検査判断料	麻酔管理料(I)
小児食物アレルギー負荷検査	麻酔管理料(II)
内服・点滴誘発試験	放射線治療専任加算
センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)	外来放射線治療加算
CT透視下気管支鏡検査加算	高エネルギー放射線治療
画像診断管理加算1	強度変調放射線治療(IMRT)
画像診断管理加算2	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
遠隔画像診断	体外照射呼吸性移動対策加算
ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影	定位放射線治療
CT撮影及びMRI撮影	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
冠動脈CT撮影加算	病理診断管理加算
外傷全身CT加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術(H24年度収載) (内視鏡的大腸粘膜剥離術)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	121回(H25.4~H26.3月)
剖 検 の 状 況	剖検症例数 58例 / 剖検率 11.96%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ゲノム情報と電子化医療情報等の統合によるゲノムコホート研究の推進 大規模分子疫学コホート研究の推進と統合	野田 光彦	病院	12,498,554	補委 科学技術振興機構
基礎と臨床の橋渡しのための研究 個別化医療実現のためのトランスレーショナル研究の推進	横井 千寿	病院	300,000	補委 国立がん研究センター
環境因子の変化に伴う疾病構造変化モニタリングと中長期環境モニタリングおよび暴露調査結果を用いた環境がヒトへ与える影響の解析を行う	星野 隆之	病院	20,221,000	補委 厚生労働省
我が国における一類感染症の患者発生時に備えた診断・治療・予防等の臨床的対応及び積極的疫学調査に関する研究	加藤 康幸	DCC	7,342,000	補委 厚生労働省
わが国における熱帯病・寄生虫症の最適な診断治療体制の構築	加藤 康幸	DCC	6,500,000	補委 厚生労働省
肝硬変に対する細胞治療法の臨床的確立とそのメカニズムの解明	柳瀬 幹雄	病院	2,500,000	補委 厚生労働省
海外から輸入される多剤耐性結核に関する研究	青木 孝弘	ACC	382,640	補委 厚生労働省
腎臓機能障害者の高齢化に伴う支援のあり方に関する研究	日ノ下文彦	病院	3,000,000	補委 厚生労働省
国内で流行するHIVとその薬剤耐性株の動向把握に関する研究	瀧永 博之	ACC	1,000,000	補委 厚生労働省
HIV-1の薬剤・免疫耐性変異獲得機序の解明と新規治療法を目指した基礎的研究	瀧永 博之	ACC	5,800,000	補委 厚生労働省
血液製剤によるHIV/HCV重複感染症患者の肝移植適応に関する研究	塚田 訓久	ACC	500,000	補委 厚生労働省
HIV感染者の長期予後を既定するエイズリンパ腫の全国規模他施設共同臨床研究試験の展開と包括的医療体制の確立	田沼 順子 萩原 将太郎	ACC	1,700,000	補委 厚生労働省
HIV母子感染児における神経学的予後についての研究	田中 瑞恵	病院	1,506,000	補委 厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	三森 明夫	病院	1,000,000	補委 厚生労働省
炎症性動脈瘤形成症候群の新規診断法の確立に関する研究	松下 竹次 廣江 道昭	病院	600,000	補委 厚生労働省
エイズ患者におけるカポジ肉腫関連ヘルペスウイルスが原因となる疾患の発症機構の解明と予防治療法に関する研究	照屋 勝治	ACC	1,200,000	補委 厚生労働省
ART早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究	照屋 勝治	ACC	2,000,000	補委 厚生労働省
安全かつ効果的な抗HIV療法開発のための研究	瀧永 博之	ACC	10,771,956	補委 厚生労働省
HIV感染症とその合併症に対する新規治療法の開発に関する研究	岡 慎一 照屋 勝治	ACC	22,240,669	補委 厚生労働省
血液凝固因子製剤によるHIV感染者被害者の長期療養体制の整備に関する参加者型研究	瀧永 博之 藤谷 順子	ACC・病院	7,000,000	補委 厚生労働省
高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究	河内 正治	病院	20,419,455	補委 厚生労働省
リンパ浮腫治療へのbreakthroughを目指してII	福田 尚司	病院	3,303,692	補委 厚生労働省
SFTSの制圧に向けた総合的研究	加藤 康幸	DCC	1,000,000	補委 厚生労働省
顧みられない寄生虫症の効果的監視法の確立と感染機構の解明に関する研究	渡辺 恒二	ACC	1,850,000	補委 厚生労働省
病原体及び毒素の管理システムおよび評価に関する統括的な研究	加藤 康幸	DCC	750,000	補委 厚生労働省

HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	岡 慎一	ACC	5,465,625	補委	厚生労働省
新しい動物モデルを用いた心サルコイドーシスの画期的な早期診断法の開発	諸井 雅男	病院	780,000	補委	日本学術振興会
急性呼吸窮迫症候群の新しいバイオマーカー血中硫化水素イオンと重症化の関連性	岡本 竜哉	病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
急性心筋梗塞後:PETによる修復過程のモニタリング	諸岡 都	病院	1,729,760	補委	日本学術振興会
	原 久男 諸井 雅男 窪田 和雄				
IL-10による皮膚血管炎の制御機構の解析	石浦 信子	病院	2,080,000	補委	日本学術振興会
DNA合成を反映する新規PET製剤4DSTを利用した病変の悪性度評価と予後予測	南本 亮吾	病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
南アジアと日本における若年冠動脈疾患患者の新しい危険因子の同定とその予防法の開発	諸井 雅男	病院	963,077	補委	日本学術振興会
肺癌におけるlong noncoding RNAの発現解析	飯塚 利彦	病院	4,158,700	補委	日本学術振興会
体幹部血管性病変の低侵襲4次元非造影MR血管撮影法の確立	田嶋 強	病院	1,885,000	補委	日本学術振興会
エストロゲン標的臓器におけるLKB1-AMPKの機能解析	大石 元	病院	2,080,000	補委	日本学術振興会
アジアの更年期女性の糖尿病と心血管系疾患のリスク因子としてのVEGFの有用性	木村 壯介	病院	650,000	補委	日本学術振興会
HLA-DP5-DR53関連疾病のゲノム・免疫学的解析	野田 光彦	病院	2,990,000	補委	日本学術振興会
				補委	

計 160,508,128

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Watanabe, Koji	ACC	Identification of cross-clade CTL epitopes in HIV-1 clade A/E-infected individuals by using the clade B overlapping peptides	MICROBES AND INFECTION
2	Yamashita, Hiroyuki	膠原病科	Similarities and differences in fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography findings in spondyloarthropathy, polymyalgia rheumatica and rheumatoid arthritis	JOINT BONE SPINE
3	Honda, Ritsuko	糖尿病内分泌代謝科	The long-term coronary heart disease risk of previously obese patients with type 2 diabetes mellitus	BMC ENDOCRINE DISORDERS
4	Nishigaki, Yukiko	リハビリテーション科	Development of new measurement system of thoracic excursion with biofeedback: reliability and validity	JOURNAL OF NEUROENGINEERING AND REHABILITATION
5	Kutsuna, Satoshi	国際感染症センター	Case Report: The First Case of Imported Relapsing Fever in Japan	AMERICAN JOURNAL OF TROPICAL MEDICINE AND HYGIENE
6	Kunimatsu, Junwa	総合診療科	Is Gram staining a diagnostic tool or a guide for optimal empirical therapy?	INTERNATIONAL JOURNAL OF INFECTIOUS DISEASES
7	Okamoto, Masahide	糖尿病内分泌代謝科	A case of malignant insulinoma: successful control of glycemic fluctuation by replacing octreotide injections with octreotide LAR injections	ENDOCRINE JOURNAL
8	Nakamura, Toshitaka	整形外科	Eidacalcitol is more effective for the prevention of osteoporotic fractures than alfacalcidol	JOURNAL OF BONE AND MINERAL METABOLISM
9	Hagiwara, Akiyoshi	救急科	Using fibrin degradation products level to facilitate diagnostic evaluation of potential acute aortic dissection	JOURNAL OF THROMBOSIS AND THROMBOLYSIS
10	Akahira, Moe	小児科	Validation of a transcutaneous bilirubin meter in Mongolian neonates: comparison with total serum bilirubin	BMC PEDIATRICS
11	Hamasaki, Hidetaka	糖尿病内分泌代謝科	Correlations of non-exercise activity thermogenesis to metabolic parameters in Japanese patients with type 2 diabetes	DIABETOLOGY & METABOLIC SYNDROME
12	Kishimoto, Miyako	糖尿病内分泌代謝科	Diabetes care: After the Great East Japan Earthquake	JOURNAL OF DIABETES INVESTIGATION
13	Noto, Hiroshi	糖尿病内分泌代謝科	Latest insights into the risk of cancer in diabetes	JOURNAL OF DIABETES INVESTIGATION
14	Kato, Masayuki	糖尿病内分泌代謝科	Effects of walking on medical cost: A quantitative evaluation by simulation focusing on diabetes	JOURNAL OF DIABETES INVESTIGATION
15	Tamaki, Takeshi	皮膚科	Case of tuberculosis cutis miliaris with epithelioid cell granuloma	JOURNAL OF DERMATOLOGY
16	Yamashita, Hiroyuki	膠原病科	Diagnosis and treatment of primary Sjogren syndrome-associated peripheral neuropathy: a six-case series	MODERN RHEUMATOLOGY
17	Yamashita, Hiroyuki	膠原病科	Inflammation surrounding the vertebral spinous processes as spondylarthritis in Behcet's disease	MODERN RHEUMATOLOGY
18	Yamashita, Hiroyuki	膠原病科	Thrombotic thrombocytopenic purpura with an autoantibody to ADAMTS13 complicating Sjogren's syndrome: two cases and a literature review	MODERN RHEUMATOLOGY
19	Yamashita, Hiroyuki	膠原病科	Hemophagocytic lymphohistiocytosis complicated by central nervous system lesions in a patient with dermatomyositis: a case presentation and literature review	MODERN RHEUMATOLOGY
20	Kitamura, Tomomi	小児科	Factors affecting childhood immunization in Lao People's Democratic Republic: A cross-sectional study from nationwide, population-based, multistage cluster sampling	BIOSCIENCE TRENDS
21	Nishijima, Takeshi	ACC	Urinary beta-2 microglobulin and alpha-1 microglobulin are useful screening markers for tenofovir-induced kidney tubulopathy in patients with HIV-1 infection: a diagnostic accuracy study	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY
22	Yashiro, Shigeko	眼科	Long-term control of CMV retinitis in a patient with idiopathic CD4(+) T lymphocytopenia	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY
23	Kitamura, Tomomi	小児科	World Health Assembly Agendas and trends of international health issues for the last 43 years: Analysis of World Health Assembly Agendas between 1970 and 2012	HEALTH POLICY
24	Yamauchi, Akihito	耳鼻咽喉科	Phase Difference of Vocally Healthy Subjects in High-Speed Digital Imaging Analyzed With Laryngotopography	JOURNAL OF VOICE
25	Yamamoto, Kei	国際感染症センター	Meningococemia due to the 2000 Hajj-Associated Outbreak Strain (Serogroup W-135 ST-11) with Immunoreactive Complications	JAPANESE JOURNAL OF INFECTIOUS DISEASES

26	Minamimoto, Ryogo	放射線診断科	The current status of an FDG-PET cancer screening program in Japan, based on a 4-year (2006-2009) nationwide survey	ANNALS OF NUCLEAR MEDICINE
27	Minamimoto, Ryogo	放射線診断科	Incidental focal FDG uptake in heart is a lighthouse for considering cardiac screening	ANNALS OF NUCLEAR MEDICINE
28	Minamimoto, Ryogo	放射線診断科	Observer variation study of the assessment and diagnosis of incidental colonic FDG uptake	ANNALS OF NUCLEAR MEDICINE
29	Ito, Kimiteru	放射線核医学科	Evaluation of Wegener's granulomatosis using 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography	ANNALS OF NUCLEAR MEDICINE
30	Ito, Kimiteru	放射線核医学科	Imaging spectrum and pitfalls of 18F-18-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography in patients with tuberculosis	JAPANESE JOURNAL OF RADIOLOGY
31	Gatanaga, Hiroyuki	ACC	Prophylactic Effect of Antiretroviral Therapy on Hepatitis B Virus Infection	CLINICAL INFECTIOUS DISEASES
32	Gatanaga, Hiroyuki	ACC	Naturally Selected Risperivirine-Resistant HIV-1 Variants by Host Cellular Immunity	CLINICAL INFECTIOUS DISEASES
33	Hamasaki, Hidetaka	糖尿病内分泌代謝内科	Comment on: Tsiakou et al. Arterial Stiffness is Inversely Related to Plasma Adiponectin Levels in Young Normotensive Patients With Type 1 Diabetes. Diabetes Care 2013;36:734-736	DIABETES CARE
34	Suzuki, Nao	看護部	Generation of Engraftable Hematopoietic Stem Cells From Induced Pluripotent Stem Cells by Way of Teratoma Formation	MOLECULAR THERAPY
35	Nagata, Naoyoshi	消化器内科	Combined Endoscopy, Aspiration, and Biopsy Analysis for Identifying Infectious Colitis in Patients With Ileocecal Ulcers	CLINICAL GASTROENTEROLOGY AND HEPATOLOGY
36	Gatanaga, Hiroyuki	ACC	Prophylactic Effect of Lamivudine-Based Antiretroviral Therapy on Incident Hepatitis B Virus Infection Among HIV-Infected Patients Reply	CLINICAL INFECTIOUS DISEASES
37	Hiroe, Michiaki	循環器内科	Preliminary study of serum tenascin-C levels as a diagnostic or prognostic biomarker of type B acute aortic dissection	INTERNATIONAL JOURNAL OF CARDIOLOGY
38	Moroi, Masao	循環器内科	Association Between Abnormal Myocardial Fatty Acid Metabolism and Cardiac-Derived Death Among Patients Undergoing Hemodialysis: Results From a Cohort Study in Japan	AMERICAN JOURNAL OF KIDNEY DISEASES
39	Morishita Nori	薬剤部	Liver stiffness measurement by acoustic radiation force impulse is useful in predicting the presence of esophageal varices or high-risk esophageal varices among patients with HCV-related cirrhosis.	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY
40	Nishijima, Takeshi	ACC	Switching from efavirenz/emtricitabine plus zalcitabine/r to raltegravir plus darunavir/r in Patients with Suppressed Viral Load Did Not Result in Improvement of Renal Function but Could Sustain Viral Suppression: A Randomized Multicenter Trial	PLOS ONE
41	Nishijima, Takeshi	ACC	Illicit Drug Use Is a Significant Risk Factor for Loss to Follow Up in Patients with HIV-1 Infection at a Large Urban HIV Clinic in Tokyo	PLOS ONE
42	Mizushima, Daisuke	ACC	Preemptive Therapy Prevents Cytomegalovirus End-Organ Disease in Treatment-Naive Patients with Advanced HIV-1 Infection in the HAART Era	PLOS ONE
43	Nagata, Naoyoshi	消化器内科	Alcohol and Smoking Affect Risk of Uncomplicated Colonic Diverticulosis in Japan	PLOS ONE
44	Nishijima, Takeshi	ACC	High Prevalence of Illicit Drug Use in Men Who Have Sex with Men with HIV-1 Infection in Japan	PLOS ONE
45	Mizushima, Daisuke	ACC	WHO Antiretroviral Therapy Guidelines 2010 and Impact of Tenofovir on Chronic Kidney Disease in Vietnamese HIV-Infected Patients	PLOS ONE
46	Nishijima, Takeshi	ACC	Ritonavir-Boosted Darunavir Is Rarely Associated with Nephrolithiasis Compared with Ritonavir-Boosted Atazanavir in HIV-Infected Patients	PLOS ONE
47	Tanuma, Junko	ACC	Pharmacokinetics of Rilabutin in Japanese HIV-Infected Patients with or without Antiretroviral Therapy	PLOS ONE
48	Ikura, Motoyasu	呼吸器内科	Effect of Lifestyle on Asthma Control in Japanese Patients: Importance of Periodical Exercise and Raw Vegetable Diet	PLOS ONE
49	Goto, Maki	糖尿病内分泌代謝内科	Reduction in Adiposity, beta-Cell Function, Insulin Sensitivity, and Cardiovascular Risk Factors: A Prospective Study among Japanese with Obesity	PLOS ONE
50	Noto, Hiroshi	糖尿病内分泌代謝内科	Low-Carbohydrate Diets and All-Cause Mortality: A Systematic Review and Meta-Analysis of Observational Studies	PLOS ONE
51	Goto, Atsushi	糖尿病内分泌代謝内科	Incidence of Type 2 Diabetes in Japan: A Systematic Review and Meta-Analysis	PLOS ONE
52	Nagata, Naoyoshi	消化器内科	Alcohol and Smoking Affect Risk of Uncomplicated Colonic Diverticulosis in Japan	PLOS ONE
53	Moroi, Masao	循環器内科	A preliminary study of the potential role of FGF-23 in coronary calcification in patients with suspected coronary artery disease	ATHEROSCLEROSIS
54	Ikeda, Nobutaka	循環器内科	Impact of Carotid Artery Ultrasound and Ankle-Brachial Index on Prediction of Severity of SYNTAX Score	CIRCULATION JOURNAL

55	Kasuga, Masato	総長	Report of the Japan Diabetes Society/Japanese Cancer Association joint committee on diabetes and cancer	CANCER SCIENCE
56	Hamada, Yohei	ACC	Is Ritonavir-Boosted Atazanavir a Risk for Cholelithiasis Compared to Other Protease Inhibitors?	PLOS ONE
57	Hamada, Yohei	ACC	Assessment of Antigenemia Assay for the Diagnosis of Cytomegalovirus Gastrointestinal Diseases in HIV-Infected Patients	AIDS PATIENT CARE AND STDs
58	Kimura, Akio	救急科	Whole-body computed tomography is associated with decreased mortality in blunt trauma patients with moderate-to-severe consciousness disturbance: A multicenter, retrospective study	JOURNAL OF TRAUMA AND ACUTE CARE SURGERY
59	岸本 美也子	糖尿病内分泌代謝科	The effect of alogliptin and metformin combination therapy in type 2 diabetes: a pilot study.	JOURNAL OF ENDOCRINOLOGY AND METABOLISM
60	財部 大輔	糖尿病内分泌代謝科	Cystic pheochromocytoma discovered as an adrenal incidentaloma.	JOURNAL OF MEDICAL CASES
61	能登 洋	糖尿病内分泌代謝科	Effect of calcium channel blockers on incidence of diabetes: a meta-analysis.	DIABETES, METABOLIC SYNDROME AND OBESITY
62	岸本 美也子	糖尿病内分泌代謝科	A report on diabetes seminars for medical staff: findings from a questionnaire survey.	DIABETOLOGY INTERNATIONAL
63	Ozaki, Takashi	膠原病科	Cytomegalovirus disease of the upper gastrointestinal tract in patients with rheumatic diseases: a case series and literature review	CLINICAL RHEUMATOLOGY
64	Hamada, Yohei	ACC	Three cases of IMP-type metallo-beta-lactamase-producing Enterobacter cloacae bloodstream infection in Japan	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY
65	Shindo, Takuma	ACC	Combination of high-dose dexamethasone and antiretroviral therapy rapidly improved and induced long-term remission of HIV-related thrombocytopenic purpura	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY

計 65

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
手順書の主な内容： 目的と適用範囲、総長の業務、倫理委員会及び倫理委員会事務局の設置、研究責任者等の業務、記録の保存等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 17 回 (一般12回、遺伝子4回、ヒトES1回)

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
規定の主な内容： 趣旨、用語の定義、利益相反マネジメントの対象、職員等の責務、各部署における対応、利益相反マネジメント委員会、所掌事項、調査結果に基づく処置、異議申立て、組織、委員長、委員会の開催、議事、意見の聴取等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 16 回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 16 回
研修の主な内容： 臨床研究に関する各種指針の解説を中心に、臨床研究の倫理全般に関する解説を実施している（臨床研究認定対象講習会(B)、ビデオ上映会）。	

補足： 当施設で臨床研究を行う研究者は、臨床研究認定証の取得を必須としている。臨床研究認定証の取得には、(A)、(B) 2種類の臨床研究認定対象講習会を各1回以上受講することとしている（2年更新）。

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかなとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修(いわゆる「初期臨床研修」)を修了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修(いわゆる「後期研修」)については、日本専門医機構の統一基準に沿って、平成29年4月から開始される、新・専門医制度に準拠し、以下の研修内容としている。

①レジデント課程(3年間):初期研修2年間の課程を修了した者を対象とし、各専門領域の基本部分と関連領域とを幅広く修得する。平成29年度開始の新・専門医制度において、日本専門医機構の定める19分野の基本領域の専攻医研修との整合性を考慮した研修課程である。

②フェロー課程(3年間):レジデント課程3年間で修了した者を対象とし、各専門領域におけるより高度な研修を行う。平成29年度から始まる新・専門医制度において、日本専門医機構の定める19分野のSubspecialty(亜専門)領域の専攻医研修との整合性を考慮した研修課程である。

2 研修の実績

研修医の人数 157人(レジデント・フェロー課程に属する専攻医合計数)

(注)前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者 氏名	診療科	役職等	臨床経 験年数	特記事 項
柳瀬 幹雄	消化器内科	第二消化器内科医長	22年	
廣井 透雄	循環器内科	第一循環器内科医長	24年	
杉山 温人	呼吸器内科	第一呼吸器内科医長・診療運営管理部門長	32年	
梶尾 裕	糖尿病内分泌代謝 科	第一糖尿病科医長	28年	
日ノ下 文彦	腎臓内科長	腎臓内科医長・臨床研究連携バイオバンク 部門長	32年	
三森 明夫	膠原病科	第一膠原病科医長・臨床病理指導部長	32年	
萩原 将太郎	血液内科	第二血液内科医長	23年	
竹内 壯介	神経内科	第一神経内科医長	21年	
松下 竹次	小児科	第一小児科医長	32年	
玉木 毅	皮膚科	皮膚科医長	26年	
今井 公文	精神科	第一精神科医長	22年	

田嶋 強	放射線科	放射線診断科医長・放射線診療部門長	23年	
木村 昭夫	救急科	救急救命科医長・救急救命センター長	29年	
加藤 温	総合診療科	第二総合診療科医長	19年	
藤谷 順子	リハビリテーション科	リハビリテーション科医長	26年	
猪狩 亨	病理診断科	臨床病理室医長	25年	
矢野 秀朗	外科	下部消化管外科医長	23年	
保坂 茂	心臓血管外科	心臓血管外科医長	30年	
喜納 五月	胸部外科	胸部外科医長	20年	
原 徹男	脳神経外科	第一脳神経外科医長・副院長	30年	
桂川 陽三	整形外科	第一整形外科医長	26年	
養和田 滋	泌尿器科	第一泌尿器科医長	37年	
片井 直達	眼科	眼科医長	24年	
矢野 哲	産婦人科	第一産婦人科医長・中央検査部門長	33年	
前原 康宏	麻酔科	麻酔科医長	29年	
松林 薫美	形成外科	形成外科医長	31年	
丸岡 豊	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	歯科口腔外科医長	23年	
大曲 貴夫	感染症内科	感染症内科医長・国際感染症センター長	17年	
岡 慎一	エイズ治療・研究開発センター	エイズ治療・研究開発センター長	31年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	院長 中村 利孝
管理担当者氏名	須貝 和則、堀之内 勝志、六ツ見 しのぶ、枚木 優子、深谷 隆史、和泉 啓司郎

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 医事室 電子カルテ	年度ごとに文書保存 診療録 電子媒体
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	文書保存 電子媒体
	高度の医療の提供の実績	財務経理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療教育室	
	高度の医療の研修の実績	医療教育室	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事室	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十一の第一項の各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	文書保存
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一	院内感染のための指針の策定状況	院内感染管理室
	第一項各号及び第九条の二十三	院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染管理室
	第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染管理室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理室	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室	

文書保存

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	堀之内 勝志		
閲覧担当者氏名	小野塚 優理		
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要			
独立行政法人国立国際医療研究センター情報公開手続規程第 5 条（開示請求の手続）第 1 項に基づき、様式 1 法人文書開示請求書をセンターに提出することにより、開示（閲覧）請求を行う。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 趣旨 2. 医療に係る安全管理のための基本的考え方 3. 医療に係る安全管理のための組織及び委員会等に係る基本的事項 4. 医療に係る安全管理のための職員研修等に関する基本的事項 5. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本的事項 6. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 7. 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本的事項 8. 患者からの相談への対応に関する基本方針 9. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 医療安全推進委員会 ・ 報告レポートに対する分析及び再発防止策の検討 ・ 防止対策・改善策の実施状況の調査・見直し ・ 職員に対する提言 ・ 啓発、教育、広報に関すること ・ 医療訴訟事案に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年43回
・ 研修の主な内容： 1. 新規採用者オリエンテーション ・ ヒヤリハット劇場ビデオ上映(被害者家族、チームSTEPPS) 2. 全職員対象医療安全研修(3回) ①テーマ「医療安全マニュアルのこれだけは知っておこう！」 ・ 指示出し、指示受け ・ 患者確認 ・ 薬剤 ・ 療養上 ・ その他(診療録など) ・ 指さし呼称 ②テーマ「確かにミスを防ぐ、コミュニケーション術 チームSTEPPS」ビデオ上映(23回) 3. 麻薬取り扱い研修(2回) 4. 抗がん剤取り扱い研修(1回) 5. PICC研修(病棟毎に開催 13回)	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. インシデントレポートシステムに入力し、速やかに報告する。 2. 発生した事例は、リスクマネジメント部会において分析を行う。 3. リスクマネジメント部会での検討結果を医療安全推進委員会で再度検討を行う。 4. ヒヤリハットニュースの発行、必要に応じ注意喚起の号外発行 5. 医療安全研修の実施 6. 医療安全ポケットマニュアルを毎年更新	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(1名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任2名 兼任3名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故に係る役割 発生時の状況把握、診療記録と報告書作成の指導、患者家族への対応、医療安全推進委員会メンバーの招集・会議開催、原因分析、事故調査委員会に係る内容、警察や行政機関等の対応、日本医療機能評価機構への報告 2. 平常時の役割 ヒヤリハット報告への対応、実態調査と予防活動の取り組み、情報管理及び情報発信、教育研修の企画運営 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 国立国際医療研究センターにおける院内感染防止の目的2. 感染対策の基本的考え方3. 感染対策防止対策委員会及び院内感染対策に係る組織に関する基本事項4. 感染対策のために職員に対して行われる研修に関する基本方針5. 感染症発生状況の報告に関する基本方針6. 感染症発生時の対応に関する基本事項7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する方針8. 感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	1年 12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 微生物室からの耐性菌分離レポートの集計結果による発生動向の把握と分析2. 薬剤部からの抗菌薬使用状況報告による耐性菌検出状況の分析3. ICTから血液培養、耐性菌院内発生状況、感染対策遵守状況の報告により、院内動向の分析4. ICTで検討した課題、提案事項などを審議、決定する5. マニュアル、規約等の最終決議	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	1年 2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 手指衛生キャンペーン開催しレクチャー2. 感染性胃腸炎・インフルエンザ対策	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 週1回のICTラウンドによる感染対策の実施状況の確認、環境のチェック、指導、フォローアップ2. 細菌検査室と協力し耐性菌等の発生状況を毎日確認、検出時は病棟へ連絡し対策を指導する3. 抗菌薬使用届出制度および許可制度を運用し、状況の確認、必要時介入を行う4. 抗菌薬適正使用推進のための感染症科コンサルテーション、血液培養陽性患者のラウンドと広域抗菌薬長期使用患者への介入5. 職員の手指衛生実施状況をサーベイランス6. 感染リンクナースの年間計画に基づく活動の実施7. マニュアルの見直し・改訂	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
・ 研修の主な内容：麻薬の取扱い等について（2回）、安全な静脈注射の実施（3回）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： ・ 病棟等巡視状況報告書による定数薬等の確認 ・ 医薬品の安全使用のための情報収集および伝達 ・ 薬剤業務チェックリストによる実施確認 ・ 職員に対する医薬品の安全使用のための研修 等	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) PMDAからの医薬品・医療機器情報サービスから、添付文書改訂上の情報を入手・配信している 2) 「緊急安全性情報」「安全性情報」などの緊急かつ重篤な情報については薬剤部ホームページや院内メールで情報提供し、関係診療科、処方医には病棟薬剤師からも直接情報提供する 3) 緊急性がある用法・用量の変更（アンカロン注）では、ホームページへの掲載、メール送信と同時に定数配置のある病棟・診療科に出向き、直接情報提供している	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	1年 2回
<p>・ 研修の主な内容：医療法により特定機能病院に実施を定められている、主要8品目および新規導入機器に対して、取扱研修を実施している。主要8品目については、年2回程度対象者を決め、部署が限定されて使用する機器あれば、部署ごとに日程調整し、現場にて座学およびハンズオンを実施している。病院全体で使用する機器については、資料をリスクマネージャーに配布し、回覧及び記名リストに記名し受講を確認している。必要に応じて、部署ごとの講習会にも対応している。新規導入機器については、ME室管理の機器に限り、3日～一週間程度の取扱研修会をハンズオン形式にて開催している。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有)・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：上記主要8品目については、毎年4月に年間計画を策定し、医療機器安全管理責任者および総務部契約係に承認を受けている。これらについては、年1回医療機器安全管理責任者への実施報告を行い、承認を受けている。ME室管理の医療機器については、全台で日常点検（終業点検）を行い、機器情報管理システムに結果を入力し保管している。バッテリー動作を必須とされている機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ）は3カ月毎の定期点検とバッテリーのリフレッシュを定期的に行っている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：日本医療機能評価機構およびPMDAのHPおよび定期購読メールを確認し情報を収集している。収集した情報は、当院において有用性があると確認されれば、電子カルテシステム上のHPに掲載し、いつでも閲覧できるようにしている。病院会議等を通じて医療機器安全管理責任者およびME室安全管理者が出席者に対しプレゼンを行い周知している。自主回収情報については、PMDAに掲載される情報の収集および製造メーカーの情報の提供により安全情報と同様、院内HPに掲載し閲覧可能としている。必要に応じて、自主回収の対象になっている機器を使用する、医師および看護師に対して直接通知するほか、会議内でも注意喚起を行っている。</p>	

(様式第8)

国際研セン発 261003006 号
平成 26 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 春日 雅

独立行政法人国立国際医療研究センター病院の論文発表等の向上に関する計画に

標記について、次のとおり提出します。

記

1 論文発表等の実績

英語による発表論文数	65件
------------	-----

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資すると判断されるものの数を記入すること。

(注) 2 対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る）。

2 論文発表等を向上するための具体的な予定措置

以下の取組等により、5年以内に、基準（年間70件）以上の英語論文発表を目指す。

(1) 病院と研究所等、センター内の連携強化

病院の医師と研究所の研究者等の緊密な相互連携をさらに促進し、病院における研究・開発がより一層推進されるよう、研究所－病院連絡会議を平成26年3月に新たに設置し、毎月1回開催することとしたところ。これにより、病院における新規研究プロジェクト発足を促す。

(2) 大学との連携

平成26年度入学分からは順天堂大学と、平成27年度入学分からは慶應義塾大学医学部と連携大学院協定を結び、国立国際医療研究センターに所属しながら研究を実施し学位取得が可能となる制度を整備。

(3) 病院における若手研究者の育成

運営費交付金を若手研究者にも配分する特別枠を設定するとともに、若手研究者育成に資する論文作成支援等の取組を平成26年度から実施。

(4) 臨床研究センターによる、臨床研究に関わる人材育成プログラムの強化

これまでも臨床研究センターでは人材育成プログラムを実施してきたが、若手臨床研究者養成のプログラムを平成27年度以降に新規に開設するなどしてプログラムを強化。

(5) 診療科別の英語論文発表数の公表

診療科別の英語論文発表数をHP等で公表することにより、競争の原理を働かせる。